



# 米子市埋蔵文化財センターたより



第9号

2013年6月

## こしきさん 越敷山古墳群の調査 —越敷ノ原地区と金廻地区—



108号墳の土器出土状況



107号墳の勾玉出土状況

真冬から調査を開始した越敷山古墳群の調査も古墳の墳丘下層の調査を残すのみとなり、現地調査完了まであと一步となりました。

これまでの調査で、坂長地区では7基の古墳と竪穴建物5棟、掘立柱建物7棟、奈良時代の道路、縄文時代の落とし穴7基を検出しました。

ここで見つかっている古墳は、直径10mほどの円墳で構成されていますが、浅い周溝を持つ小規模な円墳も2基含まれています。古墳の埋葬部は大半が盗掘を受けており、中には石棺の石材ごと完全に抜き取られているものもありました。副葬品として目立ったものは、107号墳の石棺からメノウ製の勾玉3点、ガラス製の丸玉2点と直径1mm程の小玉約100点が出土したほか、108号墳の北東部に位置する土壇墓から長さ90cmの鉄刀が出土しています。また、古墳の周溝内からは葬送儀礼に使われたと考えられる須恵器や土師器が多数出土しました。こうした副葬品から、これまで内容が不明だった越敷山古墳群が古墳時代中期(今から1600年前)に営まれた古墳群であることが判明しました。

また、4月から現地調査を開始した越敷山古墳群の金廻地区は、平成23・24年度に鳥取県教育文化財団が発掘を行った地点の隣接地にあたります。この地点からは縄文時代のものと考えられる落とし穴7基と、丘陵部に周溝を巡らした円墳を2基確認しましたが、古墳の埋葬主体は石棺1基と石で蓋をした土壇墓1基を確認したにとどまりました。

越敷山古墳群の調査は、本格的な夏を迎える7月から越敷山70号墳が所在する丘陵部の調査に移ります。そして、年度末までに越敷山73・74号墳の調査を完了させる予定です。(佐伯)

## 発掘調査情報

### 観音寺狼谷山遺跡の調査

—米子市観音寺—

米子市水道局の配水池設置工事に伴う調査を5月から開始しました。調査遺跡は米子バイパス米子南ICのすぐ南側にある丘陵に位置します。周辺には米子バイパス工事に伴って調査が行われた東宗像遺跡や、大塚山横穴墓群などで知られるように多くの遺跡があった場所です。調査予定地の中には古墳の存在がすでに確認されています。

現在は、谷部の調査を行っています。工事や調査の都合で、谷部を三分割して調査を行い、ほぼ2/3の調査が終わりました。当初想定していたより遺物の出土量は少ないですが、縄文式土器、弥生式土器、矢じり、石斧等が出土しています。

例年になく早い5月の梅雨入り宣言にもかかわらず、雨も降らず、カラカラの風も吹かない暑い谷の中での調査を行っていましたが、6月の半ばを過ぎようやく梅雨らしくなってきました。これからは雨の心配をしながらの調査となります。本格的な夏が来るころには、尾根の調査を行っているでしょう。(平木)



調査地遠景



出土した縄文土器

## 整理室たより

整理室では国道181号線岸本バイパスに伴う越敷山107号墳の現地調査で、石棺内からメノウの勾玉3個とガラス小玉8個が検出されたため、石棺内の土を持ち帰り、微小遺物の検出洗浄作業を行いました。

その結果、径1mmのガラス小玉100個と径5mmのガラス小玉2個を見つけることが出来ました。

このように、肉眼で見つけにくい遺物は土壌洗浄を行い整理作業員の眼力での発見に努めます。土壌洗浄は微小遺物の検出の重要な作業のひとつです。



越敷山107号墳のガラス小玉と勾玉

青木遺跡は米子市街地の南東5kmの青木の丘陵上にある弥生時代中期後半（1世紀）から飛鳥・奈良時代（8世紀）にかけての集落・墳墓の遺跡です。昭和46年（1971）から昭和52年（1977）にかけて行われた団地造成に伴う事前の発掘調査で、竪穴住居跡206棟、掘立柱建物跡260棟など多くの遺構と数万点の遺物が出土し、当時、西日本最大級の集落跡として大きな注目を集めました。

遺跡の一部は国の史跡に指定を受け保存され保存地区には、30mの前方後円墳2基を含む古墳17基、弥生時代から奈良時代の竪穴住居跡23棟、掘立柱建物跡9棟などが残されています。現在は、住宅団地のなかの史跡緑地公園として整備されて憩いの場となっています。

青木遺跡の調査を契機に県や市に専門職の文化財保護主事が置かれ、発掘調査等による遺跡の保護体制の整備のきっかけとなりました。また文化財保存や歴史学習を行う市民の活動が活発に行われ、遺跡保存訴訟が行われるなど、遺跡の保存に対する意識が啓発されました。この遺跡は鳥取県の文化財保護行政の出発点と言える遺跡です。



青木遺跡J地区の掘立柱建物跡

### コラムー弥生遺跡を掘る ⑦弥生時代後期 ー青木遺跡ー

青木遺跡の集落跡からは弥生時代の人たちの生活用具である土器や石器等が多数出土しました。また、お祭りなどの祭祀に使った土製品や金属製品も出度しました。

その中で、注目されたのがH地区の市道調査区のH63号竪穴住居跡の中央ピットから検出され前漢末期の「八禽鏡」という鏡の破片です。径8.3cmの小型の平縁の鏡で、割れた半分のみですが合い向う二羽の鳥が観察され八羽の鳥が描かれているものです。

「八禽鏡」は日本国内では9例しか発見されていない貴重な鏡です。（小原）



## センター・資料館日誌

- 4月4日 桜満開で花見客トイレ借り多い。
- 4月25日 緊急雇用歴史資料整理活用事業の作業を開始した
- 4月25日 佐伯主任が須恵器調査で奈良出張。
- 4月28日 福市でつつじ祭りが開催された。



- 4月30日 福市遺跡へ会見小が遠足で来訪。
- 5月1日 埋文センターへ尚徳小学校がラリーで来訪した。
- 5月2日 埋文センターへ五千石小学校がラリーで来訪した。
- 5月8日 兵庫県の山上氏が米子城跡の調査で来訪された。
- 5月9日 旧淀江町資料（上淀白鳳の丘展示館プレハブ保管）が埋文センターへ搬入された。
- 5月12日 自主事業の福市・青木ガイドウォークを開催した。
- 5月23日 尚徳小学校3年生が古代学習で来館し出土品に触れ学習した。
- 5月25日 福市資料館へ明治大OB弥生研究会が来館した。
- 5月25～26日 濱野主任調査員を日本考古学協会へ派遣研修。博労町遺跡資料をもとに「古代炊飯方法の復元」を研究発表した。
- 6月1日 越敷山古墳検討会が埋文センター研修室と現地で開催された。



### 越敷山古墳検討会現地

- 6月8～9日 南部町東西町五月祭へ出土品を貸出展示した。
- 6月9日 埋文センター考古学講座第1回「石州府古墳群に葬られた人たち」を開催した。
- 6月11日 米子公園散歩ビデオ作成の取材があった。
- 6月13日 鳥取県埋蔵文化財専門職員研修へ佐伯・濱野が参加した。
- 6月23日 淀江古代祭りが開催され、ワクワクウオークの支援協力を行った。
- 6月27日 尚徳小学校3年生が福市で古代体験学習を行った。

### 編集後記

福市遺跡公園のつつじも終わり、早々と梅雨入り宣言がされ、暑い日々が続いています。

センターでは、グリーンカーテンのゴーヤがつるを伸ばしはじめ、早々とおのれ生えのコスモスが花をつけています。

発行日 平成25年6月28日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp